

まつもと じゅん
松本純

中区・磯子区・金沢区
**まちかど
政治瓦版**

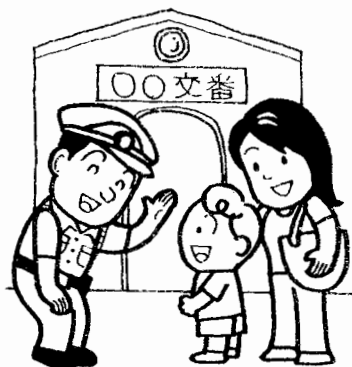


平成15年7月16日号
発行 かながわ1区支部
編集長 平木 茂

No. 3

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ www.jun.or.jp

交番にいま、おまわりさんがいない！ 警察官の増員で、《日本の治安》を回復したい



日本の「治安」が、いま大きな危機にさらされています。

テレビのワイドショーは、毎日、全国で起こっている凶悪事件を報じています。私の身のまわりでも、私の事務所のある野毛は、横浜市内でも有数の飲食店街ですが、ある中華料理店のご主人は、「2回もドロボーに入られたんですよ。この不景気でお客さんが減っているのに加えて、ドロボーの被害では、店はずぶれちゃいますよ」と嘆いておられました。また、関内に事務所をもっている友人の弁護士は、ビル中の事務所という事務所がピッキングの被害にあったあと、目のつく場所に1万円札を何枚か置いて帰るようになったそうです。「これで勘弁してほしい」という切ない思いから、そうしているのです。

私たちの《安全》は、まず自分で自分を守ることから始まりますが、最終的には警察に頼らざる得ないのが現実です。

かつて、《交番》は日本の安全の象徴でした。交番にいつもおまわりさんがいるということ、そして街にパトロールするおまわりさんの姿があるということが、犯罪の抑止力となっていたのです。治安の悪化に悩むアジアの国の指導者が、この日本の交番制度に注目し、この制度を導入して効果をあげたことがあったほどです。

ところが、いま、日本の交番におまわりさんがいないことが多い。街をパトロールするおまわりさんの姿をほとんどみかけない。そのことは、横浜でも皆さんが実感されていることではないでしょうか。

そこで、「警察官の増員」が、各自治体の大きな課題となっています。

それを初めて具体的な政策として掲げたのは、東京都の石原慎太郎知事です。石原知事は、都庁の一般職員1,000人を警視庁に出向させ、事務に従事している警察官を交番などの現場に配置して、パトロールを充実させる構想を打ち出しました。

神奈川県松沢成文知事も、同じように県庁職員1,500人の県警への派遣を明らかにしました。これは、現在県警が一般職員の削減を進めていることなどから、早急な実現は困難な状況ですが、警察OBなどを再雇用する交番相談員の増員も視野に入れて、実質的に警察官の増員をはかる道を探っています。

警察官の増員については、神奈川県議会の自民党でも、以前からあらゆる方法を尽くして警察庁にも働きかけるなどして、過去3年で1,040人の増員を実現しました。今回の増員策の実現には、いろいろな困難はあるでしょうが、県と県議会、県警がお互いに持てるすべての知恵を出しあい、実現を図っていかねばなりません。

ニューヨークのジュリアーニ前市長といえば、2棟の巨大なビルが一瞬のうちに崩壊した、あの《9・11テロ》の際、先頭に立って、ニューヨーク市民の勇気をふるい起こした市長として、私たちの記憶に鮮明に残っています。そのジュリアーニさんはまた、軽微な犯罪を放っておけば、それが凶悪犯罪を招くという《破れ窓理論》を掲げ、ニューヨーク市警の大幅な警察官増員で治安回復を成し遂げた市長としても知られています。

私たちもいま、ニューヨークの教訓に学ぶときではないでしょうか。





新しいポスターできました！ ご覧になっていただけましたか？

このポスターには、私の顔(デカイ顔ですいません)のほかに6枚の写真が印刷されています。実はそのひとつひとつに、私の思いを込めました。その思いとは。まず、右側一番下の写真から……。

●ここに注目！「松本純のポスター」その1

ベースのよろに、基本を大切に

私と家内の出会いを結びつけてくれたのが、ウッドベース！それはまだ高校生だった私が、慈恵医大のコンボでベースを弾いていたときでした。ひと目ポレ……？

当時、うちの学校では、まだ有名になる前のオフコースが、聖光祭(文化祭)で大活躍していて、ベースを担当していた鈴木康博先輩からベースを借りて遊んでいたことが、ジャズに興味をもつきっかけでした。

それ以来、ベースの魅力にとりつかれ、まだ高校在学中でしたが、慈恵医大にいった先輩にスカウトされて、いつのまにか大学生のバンドメンバーになっていたのです。

ベースは脇役です。しかも、一拍も休むことはできず、一定のリズムを刻み続けなければなりません。

ベースの音がなくなったら、全体のハーモニーは壊滅です。その上、弾きはじめると、2、3曲で右手の人差し指と中指にビックリするほどの水ぶくれができてしまうハードな仕事です。

政治を考えても、同じように思うことがあります。

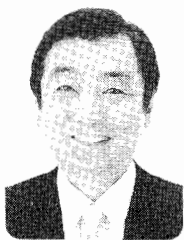
どんなに痛い、苦しい思いをしても、ひと時も休まず、コツコツと基本の音を弾き続けること。つまり、当たり前のことを、当たり前にする。それによって全体のハーモニーが完成するのではないのでしょうか。

私は、そんな政治を求めてゆきたいのです。(純)

「まちかど政治瓦版」第3号をお届けします。ところで、これまでの瓦版、いかがでしょうか？ 事務所に寄せられた感想、ご意見を紹介します。これからも皆さんの声をお寄せください。

- 「自分の言葉で話せ」と友人に言われたと第1号に書いてありました。なんと、その友人はすばらしい！私もそう思います。「自分の言葉で話す」という考え方には賛成です。政治にはあまり興味がありませんでしたが、松本さんには興味を持ちました。ご健闘を祈ります。(磯子区 主婦)
- 瓦版よく読んでいますが、残念ながらあなたに票を入れる気にはなりません。自民党議員の相次ぐやりきれないスキャンダル、そして問題発言。そういう人が多いので、松本さんに入れてたくても入れられないのです。(金沢区 女性)
- 今、区役所でミニコミ紙の講習を受けています。あと2回講習を受けたあと、自分流のミニコミ紙を作らなければなりません。瓦版を読んで、「この方法でいこう」とヒントをいただきました。この試み、絶対当たりますよ！次号が待ち遠しいです。(磯子区 女性)

まつもと じゅん プロフィール



昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ。本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師。製薬会社を経て、(有)松本薬局に入社。現在は代表取締役。本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長として、街づくりや地域活動に取り組む。平成2年、横浜市議中区補欠選で初当選、3期務める。平成8年、衆議院総選挙で神奈川1区当選。専門を生かして医療・福祉・介護・年金などに全力投球。平成12年の総選挙で次点落選。現在は自民党衆議院神奈川1区支部長として国政復帰奮闘中。